

事業所保存・閲覧用

(評価者の個人名は非公表とされておりますので、保護者様・来訪者様等の
閲覧用には、こちらの副本をご使用くださいますようお願いいたします)

東京都福祉サービス第三者評価(2023年度) 評価結果報告書

2024年3月29日

社会福祉法人つぼみ会 御中
LIFE SCHOOL 根岸こどものいえ

〒 160-0023

所在地 東京都新宿区西新宿6-15-1
セントラルパークタワー ラ・トゥール新宿707

評価機関名 特定非営利活動法人福祉総合評価機構

認証評価機関番号 機構 03 ー 081

電話番号 03-6279-0331

代表者氏名 理事長 中込 重秋



以下のとおり評価を行いましたので、東京都福祉サービス評価推進機構に報告いたします。

評価者 (評価者養成講習修了者番号及び担当分野)	修了者番号		担当分野	
	①	H1701075	<input checked="" type="checkbox"/> 福祉	<input type="checkbox"/> 経営
	②	H0702006	<input checked="" type="checkbox"/> 福祉	<input checked="" type="checkbox"/> 経営
	③	H0702077	<input checked="" type="checkbox"/> 福祉	<input checked="" type="checkbox"/> 経営
	④	H0902065	<input checked="" type="checkbox"/> 福祉	<input type="checkbox"/> 経営
	⑤	H1001023	<input checked="" type="checkbox"/> 福祉	<input type="checkbox"/> 経営
	⑥		<input type="checkbox"/> 福祉	<input type="checkbox"/> 経営
福祉サービス種別	認可保育所			
評価対象事業所名称	LIFE SCHOOL 根岸こどものいえ			
事業所連絡先	〒	110-0003		
	所在地	東京都台東区根岸4-15-13		
	Tel	03-6458-1451		
事業所代表者氏名	野尻 紘子			
契約日	2023年 9月 1日			
利用者調査票配布日(実施日)	2023年 12月 1日			
利用者調査結果報告日	2024年 2月 2日			
自己評価の調査票配布日	2023年 12月 1日			
自己評価結果報告日	2024年 2月 2日			
訪問調査日	2024年 2月 14日			
評価合議日	2024年 2月 14日			
コメント (利用者調査・事業評価の工夫点、補助者・専門家等の活用、第三者性確保のための措置などを記入)	・利用者調査は共通評価項目により、インターネットでのウェブアンケート形態で実施した。また調査開始時に書面・ポスターの配信または配付・掲示等により保護者の理解促進を図るほか、開始後には提出御礼と提出促進を兼ねたチラシを全対象者に配信または配付し、必要に応じ提出期限を延長するなど、回答率向上にも努めた。 ・事業所には開始時の説明や独自資料の提供等により、第三者評価制度や評価項目・標準項目への理解を深めてもらうほか、職員層も標準項目単位で評価を行えるようにするなど、自己評価がより的確なものとなるよう配慮した。			

1	<p>理念・方針（関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</p> <p>事業者が大切にしている考え（事業者の理念・ビジョン・使命など）のうち、特に重要なもの（上位5つ程度）を簡潔に記述 （関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一人ひとりを大切に、子どもを一人の人として尊重する ・子どもの発達に合わせた丁寧な保育を行うための乳児育児担当制保育 ・多様な人間関係の中で、社会性を育む幼児異年齢混合クラス ・自ら体験し考えたことを自分の言葉で伝えられる、主体的に生きることができる力を育てる ・子ども一人ひとりの力を信じた主体的な活動を引き出す見守る保育
2	<p>期待する職員像（関連 カテゴリー5 職員と組織の能力向上）</p> <p>(1)職員に求めている人材像や役割</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子ども一人ひとりを大切にしながらしっかり向き合い、安心と信頼の中で主体的な生活を送る手助けをすることができる人 ・保育や発達について理解を深め、感覚ではなく、何のためにやっているのかを理解したうえで実践できる人 ・子どもの権利や人権を大切にしようと考えられる人 ・発達について学び、自主的、主体的になんでもチャレンジしてみようとする気持ちを持つ人 <p>(2)職員に期待すること(職員に持って欲しい使命感)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育者は子どもにとって最も身近な社会モデルであるという自覚を持つ ・基本的な生活習慣を子どもとともに実践していき、ともに生活することを大切にしてい ・常に自己研鑽を行い、保育能力だけでなく、それぞれの個性や人格に誇りを持ちながら、人と人との関わりを大事にしていくことを考え、人間力の向上にも努める姿勢を持つ

調査対象	調査開始時点での当園の利用世帯64(在籍児童数73)を対象として実施した。なお、兄弟姉妹がいる世帯は1世帯として扱った。
調査方法	調査票及び調査項目は共通評価項目に準拠した。ウェブアンケート形態により実施し、回収は保護者から評価機関への直接電送(外国語世帯のみ調査票の直接郵送)にて行った。 結果は選択式・自由記述とも園に報告し、自由意見には回答者の匿名性に配慮した処理を適宜行った。
利用者総数	73
利用者家族総数(世帯)	64
共通評価項目による調査対象者数	64
共通評価項目による調査の有効回答者数	38
利用者家族総数に対する回答者割合(%)	59.4

利用者調査全体のコメント

総合的な満足度は「大変満足」36.8%・「満足」50.0%の計86.8%で、設問別では「発達に配慮した保育活動」「食事」「整理整頓・清潔」「職員の対応・身だしなみ」など全17問中15問で80%台～100%の高い支持を得ている。
自由意見では「先生方は気さくで話しやすく感じもよく、年齢ごとの年間のテーマに沿って課業などを通じ成長を助けてくれ、幼児になると異年齢クラスになり、年上の子の姿を見ていると吸収できているようだ」「先生方の私服、室内の雰囲気、先生を名前で呼ぶ点など、施設の名前の通り「いえ」にいるかのように自然体でフラットな保育生活が送れ、幼児からは異年齢クラスなので子どもの中で学びや気づきも多く、成長につながる環境で、室内の玩具も木製や手作りのものが多く魅力的で、行事も多過ぎずちょうどよい」「園児や保護者一人ひとりとても丁寧に対応してくれ、安心して預けられる」「子どもの気持ちによく寄り添ってくれている」「自分で考え動くことができるよう指導してくれる」などの声が寄せられている。
さらなる向上を望む意見としては、日常の保育や安全・保健、職員の体制・負担軽減、行事や情報発信の充実に関することなどが見られた。

利用者調査結果

共通評価項目	実数			
	はい	どちらとも いえない	いいえ	無回答 非該当
1. 保育所での活動は、子どもの心身の発達に役立っているか	38	0	0	0
実質的な満足度(「無回答・非該当」を除いた割合・以下同)は、有効回答者38人全員(100%)が「はい」と答えている。 自由意見は7件で、「自主性を尊重して育ててくれている」と思い、自発的に行動する子に育っているのは保育園のおかげだと思う」「日常生活の中でお友達とのやり取りなどから、やられて嫌なことなどを学びながら成長していると感じる」「工作をすることが多くなった」「保護者会で課業について説明があり、また日々の申し送り等でもテーマに沿った取組が行われており、とてもよいと思う」などの声が寄せられている。				
2. 保育所での活動は、子どもが興味や関心を持って行えるようになっているか	35	3	0	0
「はい」が92.1%、「どちらともいえない」が7.9%となっている。 自由意見は4件で、「問1の内容に加え、子どもたちを一律で接するのではなく、個人の性格やその時の体調・気分を鑑みて、可能な限り最適な対応をしてくれていると感じる」「やらされているのではなく、自分で決めて参加する読み聞かせやわらべ歌は楽しくて仕方がないようだ」「保育園で作ったものを家でも工作をするようになった」「とてもそう思う」の声が寄せられている。				
3. 提供される食事は、子どもの状況に配慮されているか	37	1	0	0
「はい」が97.4%、「どちらともいえない」が2.6%となっている。 自由意見は7件で、「季節の素材やメニュー、世界や地方のメニューも月1であり、毎月献立表を見るのが楽しみで、おやつも手作りで安心できる」「バランスのよい食事を園内で調理して提供してくれ、とてもありがたい」「毎日登園の前に献立を聞かれ、行き渋りの時も献立を伝えると保育園に行く！と言ってくれて、食事を楽しみにしているようだ」などのほか、食事の提供量や保護者との情報共有、子どもと栄養士・調理師との交流について、さらなる工夫を望む声が見られる。				

4. 保育所の生活で身近な自然や社会と十分関わっているか	34	4	0	0
「はい」が89.5%、「どちらともいえない」が10.5%となっており、「はい」の値は前回(2020年度・69.8%)から改善されている。 自由意見は7件で、「先生方が安全に配慮しているので、思いっきり遊べているようだ」「園庭がないので、公園に行けない日はわらべ歌などでうまく身体を動かしてくれているのかと思う」「3歳児以降は遠足などもあり、近場の公園や散歩以外の機会もあって素晴らしいと思う」などのほか、行事や戸外活動等のさらなる充実を望む声が寄せられている。				
5. 保育時間の変更は、保護者の状況に柔軟に対応されているか	29	3	1	5
「はい」が87.9%、「どちらともいえない」が9.1%、「いいえ」が3.0%となっている。 自由意見には「嫌な顔をされたことは一度もない」「延長のスポット利用はしたことがない」の2件の声があった。				
6. 安全対策が十分取られていると思うか	24	12	1	1
「はい」が64.9%、「どちらともいえない」が32.4%、「いいえ」が2.7%となっている。 自由意見は9件で、「玄関扉のロックの徹底、外遊び時の公園での安全確認や職員の配置など、安全対策をきちんとしている印象である」「防災訓練があり、防災意識はしっかりしていると思う」「何かがあった時の対応が以前より早く丁寧になった気がする」などのほか、保育中の安全管理や外部侵入対策について、気になる点や要望が挙げられている。				
7. 行事日程の設定は、保護者の状況に対する配慮は十分か	34	4	0	0
「はい」が89.5%、「どちらともいえない」が10.5%となっている。 自由意見は4件で、「早目に提示をもらえ、変更がある場合は必ず特記してくれて、持ち物や時間の変更などもアプリ等でも知らせてくれるので助かっている」「1か月程度は事前に通知してくれるため、不便を感じたことはない」「行事が他と比べて多くなく、ほとんどが土曜日なので参加しやすい」のほか、行事の日程等の連絡などにおける各家庭への配慮について、さらなる検討を望む声があった。				
8. 子どもの保育について家庭と保育所に信頼関係があるか	34	3	1	0
「はい」が89.5%、「どちらともいえない」が7.9%、「いいえ」が2.6%となっている。 自由意見は9件で、「送り迎え時の雑談に加え、半期に1回程度、保護者面談の機会があるため充足していると感じる」「お迎えに行った際にはその日の様子を聞き、家での様子を話したり相談をしたりできるので心強い」「お迎え時、必ず個別に話す機会があり、うれしい」などのほか、日頃の子どもの様子の伝達・報告やコミュニケーション機会の確保、職員間の情報共有などについて、さらなる配慮を望む声が見られる。				
9. 施設内の清掃、整理整頓は行き届いているか	37	1	0	0
「はい」が97.4%、「どちらともいえない」が2.6%となっている。 自由意見には「きれいにしてくれていて、近隣のゴミが散らばっている時もカラスや鳩の対策で素早く掃除してくれて助かる」「汚れていると思ったことはまったくない」の2件が寄せられている。				
10. 職員の接遇・態度は適切か	37	1	0	0
「はい」が97.4%、「どちらともいえない」が2.6%となっている。 自由意見は3件で、「第2の家を目指しているということで職員の方が私服だが、それはそれでよいと思い、また皆さんいつも明るく挨拶をしてくれて感じがよい」「どの職員の方も年齢に関係なく言葉遣いがきちんとしていて、対応もとても気持ちのよいものだと感じている」のほか、職員の接遇について、さらなる配慮を望む声が見られる。				

11. 病気やけがをした際の職員の対応は信頼できるか	36	2	0	0
「はい」が94.7%、「どちらともいえない」が5.3%となっている。 自由意見は2件で、「経緯をきちんと説明してくれるので安心できる」のほか、保育中の安全衛生管理について、さらなる配慮を望む声があった。				
12. 子ども同士のトラブルに関する対応は信頼できるか	31	4	1	2
「はい」が86.1%、「どちらともいえない」が11.1%、「いいえ」が2.8%となっている。 自由意見には「子ども同士のけんかやトラブルは日常茶飯事だが、それぞれの子どもからきちんと話を聞いて解決に導いてくれるように思う」「以前は心配だったが、今は人任せにせず、皆さんが対応してくれる様子が見え、安心できる」の2件が寄せられている。				
13. 子どもの気持ちを尊重した対応がされているか	36	2	0	0
「はい」が94.7%、「どちらともいえない」が5.3%となっている。 自由意見には「親からするとただのわがままのように思うが、ごねている時の子どもの訴えをきちんと聞いて受け止めて、要望に答えてくれ、子どもの個性を尊重してくれていると感じる」の1件があった。				
14. 子どもと保護者のプライバシーは守られているか	34	3	0	1
「はい」が91.9%、「どちらともいえない」が8.1%となっている。 自由意見には記入がなかった。				
15. 保育内容に関する職員の説明はわかりやすいか	31	6	0	1
「はい」が83.8%、「どちらともいえない」が16.2%となっている。 自由意見は5件で、「日々の連絡や伝達などはその時の状況に応じて、とても丁寧に伝えてくれる」「日々の保育内容は聞いていて感謝している」のほか、子どもの成長・発達や日頃の生活、保育内容等に関する保護者との共有について、さらなる配慮を望む声が寄せられている。				
16. 利用者の不満や要望は対応されているか	31	4	2	1
「はい」が83.8%、「どちらともいえない」が10.8%、「いいえ」が5.4%となっている。 自由意見は4件で、「子どもの相談をした際に親の要望を伝えたところ、強制するわけではないけれど、その後の園の生活の中で少しずつそれが叶うようになってきていると思う」「園長がかなり動いてくれる」「不満がまったくない」のほか、保護者の不満・要望等への対応について、さらなる配慮を望む声があった。				
17. 外部の苦情窓口（行政や第三者委員等）にも相談できることを伝えられているか	15	9	4	10
「はい」が53.6%、「どちらともいえない」が32.1%、「いいえ」が14.3%となっている。 自由意見には「職員以外の人に相談を必要とすることがなかった」「困ったことがないのでまだわからない」の2件が寄せられている。				

I 組織マネジメント項目(カテゴリー1～5、7)

No.	共通評価項目	
	カテゴリー1	
1	リーダーシップと意思決定	
	サブカテゴリー1(1-1)	
	事業所が目指していることの実現に向けて一丸となっている	サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 7/7
	評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を周知している 評点(〇〇)	
	評価	標準項目
	●あり ○なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、職員の理解が深まるような取り組みを行っている ○非該当
	●あり ○なし	2. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、利用者本人や家族等の理解が深まるような取り組みを行っている ○非該当
	評価項目2 経営層(運営管理者含む)は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている 評点(〇〇)	
	評価	標準項目
	●あり ○なし	1. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任を職員に伝えている ○非該当
	●あり ○なし	2. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任に基づいて職員が取り組むべき方向性を提示し、リーダーシップを発揮している ○非該当
	評価項目3 重要な案件について、経営層(運営管理者含む)は実情を踏まえて意思決定し、その内容を関係者に周知している 評点(〇〇〇)	
	評価	標準項目
	●あり ○なし	1. 重要な案件の検討や決定の手順があらかじめ決まっている ○非該当
	●あり ○なし	2. 重要な意思決定に関し、その内容と決定経緯について職員に周知している ○非該当
	●あり ○なし	3. 利用者等に対し、重要な案件に関する決定事項について、必要に応じてその内容と決定経緯を伝えている ○非該当
	カテゴリー1の講評	
	<p>保育や運営において法人共通に目指すものを、職員や保護者と共有すべく努めている</p> <p>子どもの最善の利益と福祉の増進、保護者や地域への支援と貢献など、法人の目指すものを保育理念に定めるとともに、子どもたちに自ら行動し、考え、発信でき、グローバル社会で豊かに生きられる力を育むことを、系列園共通の保育の指針としている。職員にはこれらを、入職前及び以降の法人の研修を通じて周知させるとともに、園内研修や日々の会議での話し合いも、これらの原点を確認する機会となっている。保護者には見学・入園時の説明のほか、保護者懇談会や種々の発信物などを通じた日々の保育実践の共有などにより、共通理解の形成に努めている。</p> <p>職員が常に子どもを主体として発想・行動し、自ら発信できる組織づくりに注力している</p> <p>経営層を含む各職位・職種の職責が、職務分担当表や法人共通の人事考課項目などに示されている。園長・主任を中心に、経営層がこれらに示される職責を踏まえ、園の運営や保育を統括するとともに、日々の会議等で法人・園の種々の方針を職員と共有している。法人の公式サイト等に謳われる「ひとりひとりを大切に」を職員・組織の判断・行動の指針とするとともに、開園5年間の歴史を継承しつつ、現場主体の保育に関する学びを通じ、職員が自らの言葉で園の保育や大切にすることを発信し、保護者や地域からの信頼を高められる組織づくりを目指している。</p> <p>各種案件を検討・決定し、必要な事柄を職員や保護者に周知させる仕組みを整えている</p> <p>園長・主任と乳児・幼児及び各クラスリーダーによるリーダー会議と、常勤者が集う職員会議を毎月設けるほか、経営層が随時話し合いを行っている。園の運営に関する各種案件は、内容や緊急性に応じ、これらの各会議で検討し、決定事項等を組織内で共有しており、不参加者には議事録や個別の伝達によって必要な情報を周知させている。また法人共通の施策・方針は毎月の法人園長会で主に検討・決定され、上述の各会議で園内に伝えられる。保護者への各種重要事項の周知は、アプリでの配信を基本に、必要に応じ書面の掲示・配付も併用して行っている。</p>	

カテゴリ-2		
2 事業所を取り巻く環境の把握・活用及び計画の策定と実行		
サブカテゴリ-1(2-1)		
事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している		サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況 6/6
評価項目1 事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している		評点(○○○○○○)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 利用者アンケートなど、事業所側からの働きかけにより利用者の意向について情報を収集し、ニーズを把握している	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所運営に対する職員の意向を把握・検討している	○非該当
●あり ○なし	3. 地域の福祉の現状について情報を収集し、ニーズを把握している	○非該当
●あり ○なし	4. 福祉事業全体の動向(行政や業界などの動き)について情報を収集し、課題やニーズを把握している	○非該当
●あり ○なし	5. 事業所の経営状況を把握・検討している	○非該当
●あり ○なし	6. 把握したニーズ等や検討内容を踏まえ、事業所として対応すべき課題を抽出している	○非該当

サブカテゴリ-2(2-2)		
実践的な計画策定に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画及び単年度計画を策定している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 課題をふまえ、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画を策定している	○非該当
●あり ○なし	2. 中・長期計画をふまえた単年度計画を策定している	○非該当
●あり ○なし	3. 策定している計画に合わせた予算編成を行っている	○非該当
評価項目2 着実な計画の実行に取り組んでいる		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた、計画の推進方法(体制、職員の役割や活動内容など)、目指す目標、達成度合いを測る指標を明示している	○非該当
●あり ○なし	2. 計画推進にあたり、進捗状況を確認し(半期・月単位など)、必要に応じて見直しをしながら取り組んでいる	○非該当
カテゴリ-2の講評		
<p>年度及び5か年の園の諸課題を各計画に定め、「園考課」により園の状況进行评估している</p> <p>年度の事業計画に、乳児・幼児の保育と給食・食育及び保健、職員の研修・会議等の年間の予定や取組方針を定めるほか、施設整備、乳児・幼児保育などに関する5か年の重点課題を「中長期経営計画」に一覧化している。5か年計画は園の現況を踏まえて毎年度更新し、当年度を起点とする中・長期的な改善の方向性を示すほか、法人理事長・保育部長が毎年度「園考課」を行って園の状況进行评估している。園考課は乳児・幼児の保育及び環境整備・職場環境など5分野で行われ、評価は5か年計画の見直しや事業計画の立案にも反映される仕組みとなっている。</p> <p>実務の計画の作成・実行や保護者・職員の意向の把握、経営状況の管理がなされている</p> <p>保育や行事、食育・保健や安全などの各分野では、年間・各期間の業務計画も作成され、計画の期間に応じた目標・ねらいや取組内容などを定め、保育の年間計画の四半期ごとの振り返りなど、必要な進捗管理のもとで実行されている。各計画の立案の参考として、保護者の意向を、行事後の感想収集や保護者懇談会、面談や日々の交流などから、また職員の意向を、日々の各会議や園長との面談等から把握している。予算の作成や収支・稼働率等の管理は、法人と園が連携し、園の状況や現場の意向を踏まえて行い、園長が予算のもとで支出を管理している。</p> <p>内外の関係者の声や地域の状況、行政の動向などに関する情報収集にも取り組んでいる</p> <p>保護者や職員には法人による年2回の意向調査も行われ、保護者からは環境・保育内容・行事などの各分野及び総合満足度、知人に園を勧めたいか等、職員からはやりがいや人間関係、給与面や園・法人に対する満足度などを把握し、上述の各計画や園・法人の運営の参考としている。また子育てや保育・教育などに関する地域の状況・ニーズを、見学や地域支援イベントで来園する未就園世帯から、会話やアンケートを通じて把握するとともに、関連する行政の政策や制度などの情報を、台東区及び法人の各園長会や自治体・各種団体の通信物などから収集している。</p>		

カテゴリ-3		
3 経営における社会的責任		
サブカテゴリ-1(3-1)		
社会人・福祉サービス事業者として守るべきことを明確にし、その達成に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 2/2
評価項目1 社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理などを周知し、遵守されるよう取り組んでいる		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 全職員に対して、社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などを周知し、理解が深まるように取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	2. 全職員に対して、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などが遵守されるように取り組み、定期的に確認している。	○非該当
サブカテゴリ-2(3-2)		
利用者の権利擁護のために、組織的な取り組みを行っている		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 4/4
評価項目1 利用者の意向(意見・要望・苦情)を多様な方法で把握し、迅速に対応する体制を整えている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく利用できることを、利用者に伝えている	○非該当
●あり ○なし	2. 利用者の意向(意見・要望・苦情)に対し、組織的に速やかに対応する仕組みがある	○非該当
評価項目2 虐待に対し組織的な防止対策と対応をしている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 利用者の気持ちを傷つけるような職員の言動、虐待が行われることのないよう、職員が相互に日常の言動を振り返り、組織的に防止対策を徹底している	○非該当
●あり ○なし	2. 虐待を受けている疑いのある利用者の情報を得たときや、虐待の事実を把握した際には、組織として関係機関と連携しながら対応する体制を整えている	○非該当

サブカテゴリ3(3-3)		
地域の福祉に役立つ取り組みを行っている		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況
		5/5
評価項目1 透明性を高め、地域との関係づくりに向けて取り組んでいる 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 透明性を高めるために、事業所の活動内容を開示するなど開かれた組織となるよう取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	2. ボランティア、実習生及び見学・体験する小・中学生などの受け入れ体制を整備している	○非該当
評価項目2 地域の福祉ニーズにもとづき、地域貢献の取り組みをしている 評点(〇〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 地域の福祉ニーズにもとづき、事業所の機能や専門性をいかした地域貢献の取り組みをしている	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所が地域の一員としての役割を果たすため、地域関係機関のネットワーク(事業者連絡会、施設長会など)に参画している	○非該当
●あり ○なし	3. 地域ネットワーク内での共通課題について、協働できる体制を整えて、取り組んでいる	○非該当
カテゴリ3の講評		
保育従事者として求められる規範・倫理について、職員にさまざまな啓発を行っている 職員には法人による入職前研修が行われており、「職員ルール」として定める服装・身だしなみや接遇、情報管理、思いやりと感謝、子どもの手本としての姿勢など、法人の保育者としての種々の規範が伝えられる。また入職後の園内での基礎教育では、園長作成の「保育について」をもとに、子どもに関わる際の所作や人権の尊重、保護者対応や勤務の心得・機密保持などについて、理解と実践を促している。子どもの人権擁護と不適切保育の防止については、法人内の複数の研修でテーマとして設けられ、今年度は全体研修でも外部講師による啓発がなされている。		
苦情を含む保護者の意向への適切な対応や、虐待等の防止のための体制を整えている 苦情解決制度を整備し、入園時の説明や園内掲示によって保護者に周知を図るほか、玄関に設置の意見箱や日々の会話・アプリ連絡帳や面談などからも、保護者の個別の意向の把握に努め、案件に応じて担任や経営層との相談の場を設けるなど、適切な対応に取り組んでいる。また家庭での育児困難や虐待の発生に備え、法人策定の関係規程やマニュアルを常備するほか、区こども家庭支援センターの担当者とは定期的な電話・訪問等を通じた連携がなされている。支援が必要な子ども・家庭には、関係職員間で情報を共有し、同センターとも協力して対応している。		
地域の子育てや保育・教育を支えるべく、さまざまな支援や関係者との連携に努めている ホームページや台東区の各種媒体を通じ、園の情報や後述の子育て支援イベントの実施予定を発信するほか、実習生の受け入れも行き、対応に必要な諸書類も整備している。概ね毎月実施する未就園世帯向けの子育て支援イベントでは、園の保育の専門資源を活かし、親子わらべうたや今年度開始の親子体操、離乳食試食会などを行っており、在園児との交流や、家庭同士の交流の場ともなっている。区の私立保育所園長会や地域内の保・幼・小・中の保育・教育施設間の連絡会を通じ、保育・教育などに関する情報交換・共有や共通課題の検討にも加わっている。		

カテゴリ4		
4	リスクマネジメント	
サブカテゴリ1(4-1)		
リスクマネジメントに計画的に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 事業所としてリスクマネジメントに取り組んでいる		評点(〇〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が目指していることの実現を阻害する恐れのあるリスク(事故、感染症、侵入、災害、経営環境の変化など)を洗い出し、どのリスクに対策を講じるかについて優先順位をつけている	○非該当
●あり ○なし	2. 優先順位の高さに応じて、リスクに対し必要な対策をとっている	○非該当
●あり ○なし	3. 災害や深刻な事故等に遭遇した場合に備え、事業継続計画(BCP)を策定している	○非該当
●あり ○なし	4. リスクに対する必要な対策や事業継続計画について、職員、利用者、関係機関などに周知し、理解して対応できるように取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	5. 事故、感染症、侵入、災害などが発生したときは、要因及び対応を分析し、再発防止と対策の見直しに取り組んでいる	○非該当
サブカテゴリ2(4-2)		
事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 4/4
評価項目1 事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 情報の収集、利用、保管、廃棄について規程・ルールを定め、職員(実習生やボランティアを含む)が理解し遵守するための取り組みを行っている	○非該当
●あり ○なし	2. 収集した情報は、必要な人が必要なときに活用できるように整理・管理している	○非該当
●あり ○なし	3. 情報の重要性や機密性を踏まえ、アクセス権限を設定するほか、情報漏えい防止のための対策をとっている	○非該当
●あり ○なし	4. 事業所で扱っている個人情報については、「個人情報保護法」の趣旨を踏まえ、利用目的の明示及び開示請求への対応を含む規程・体制を整備している	○非該当
カテゴリ4の講評		
<p>各種の重要リスクに関するマニュアル類を整備し、災害・不審者対策の訓練も行っている</p> <p>SIDS・アレルギー・窒息などの重大事故、災害や不審者、虐待など、子ども・職員の安全や園の存続に関わる各種重要リスクについて、防止・対応のための各マニュアルを整え、訓練等にも取り組んでいる。毎月避難訓練を実施し、保護者との連携を含む災害時の対応を確認しており、時間帯などをより多様に設定する工夫も期待される。災害・感染症に関するBCPも整備され、感染症についてはコロナ禍発生直後の作成であることから、内容の最適化を課題と考えている。侵入を想定した不審者対策訓練も年2回設け、防犯カメラによる常時監視も行っている。</p> <p>事故防止のための事例の共有・検証や、安全・保健に関する各種研鑽にも取り組んでいる</p> <p>子どものケガをはじめとする保育中の事故や、関連する各種ヒヤリハットは、発生・把握の直後または「週案会議」での現場への周知と、看護師を交えた原因や対応・防止対策の検討を行うとともに、看護師が定期的に発生の傾向をまとめ、職員会議で報告するなど、安全の向上につなげている。また看護師・園長及び各リーダーによる「事故防止委員会」では、ヒヤリハットや虐待への理解、感染症・熱中症や嘔吐・アレルギー事故時の対応、子どもの病院受診やプール事故防止、前年度の事故ヒヤリハットの発生の傾向など、全員参加の研修を企画・実施している。</p> <p>情報の利活用と適切な取り扱いに関する、ソフト・ハード両面の仕組みが整備されている</p> <p>法人全体で、各種事務・保育書類や保護者との連絡通信などの電子化、クラウドサーバでの系列園間の情報共有など、情報の利活用の推進に取り組むほか、就業規則や法人の関係規程に、各種情報の取り扱いや機密保持に関する規定を明示し、職員には入職時、実習生等には受け入れ時に、必要な啓発を行っている。また重要書類・情報端末類の施錠管理やパスワード等によるログイン制限、職位等に応じた電子データのアクセス権限設定など、情報漏洩の防止にも配慮し、保護者には入園時に、肖像及び個人情報の利用目的等の説明と同意確認を行っている。</p>		

5			カテゴリー5
5			職員と組織の能力向上
			サブカテゴリー1(5-1)
事業所が目指している経営・サービスを実現する人材の確保・育成・定着に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況	12/12
評価項目1 事業所が目指していることの実現に必要な人材構成にしている		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 事業所が求める人材の確保ができるよう工夫している		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 事業所が求める人材、事業所の状況を踏まえ、育成や将来の人材構成を見据えた異動や配置に取り組んでいる		<input type="radio"/> 非該当
評価項目2 事業所の求める人材像に基づき人材育成計画を策定している		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)が職員に分かりやすく周知されている		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)と連動した事業所の人材育成計画を策定している		<input type="radio"/> 非該当
評価項目3 事業所の求める人材像を踏まえた職員の育成に取り組んでいる		評点(〇〇〇〇)	
評価	標準項目		
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 勤務形態に関わらず、職員にさまざまな方法で研修等を実施している		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 職員一人ひとりの意向や経験等に基づき、個人別の育成(研修)計画を策定している		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 職員一人ひとりの育成の成果を確認し、個人別の育成(研修)計画へ反映している		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 指導を担当する職員に対して、自らの役割を理解してより良い指導ができるよう組織的に支援を行っている		<input type="radio"/> 非該当
評価項目4 職員の定着に向け、職員の意欲向上に取り組んでいる		評点(〇〇〇〇)	
評価	標準項目		
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 事業所の特性を踏まえ、職員の育成・評価と処遇(賃金、昇進・昇格等)・称賛などを連動させている		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 就業状況(勤務時間や休暇取得、職場環境・健康・ストレスなど)を把握し、安心して働き続けられる職場づくりに取り組んでいる		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 職員の意識を把握し、意欲と働きがいの向上に取り組んでいる		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 職員間の良好な人間関係構築のための取り組みを行っている		<input type="radio"/> 非該当

サブカテゴリ2(5-2)		
組織力の向上に取り組んでいる	サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	3/3
評価項目1 組織力の向上に向け、組織としての学びとチームワークの促進に取り組んでいる		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 職員一人ひとりが学んだ研修内容を、レポートや発表等を通じて共有化している	○非該当
●あり ○なし	2. 職員一人ひとりの日頃の気づきや工夫について、互いに話し合い、サービスの質の向上や業務改善に活かす仕組みを設けている	○非該当
●あり ○なし	3. 目標達成や課題解決に向けて、チームでの活動が効果的に進むよう取り組んでいる	○非該当
カテゴリ5の講評		
<p>法人全体で人材確保に努め、適正な人員配置や労働環境の整備にも取り組んでいる</p> <p>法人系列園の職員の採用は、各園の園長による担当チームを中心に、各種採用媒体・業者や養成機関、法人の公式サイト・SNSや在籍者への人材紹介奨励など、多様な方法で行っている。配属・異動は各園の状況などをもとに法人が決定し、園内では各人の経験・適性や専門性、それらのバランスなどを踏まえ、各クラスの状況に応じて配置を行い、乳児では保育の安定に配慮し、継続担任者を置く原則としている。各種労務管理、勤務形態や職位・経験・職種などによらず所定の時間内の退勤を原則とする「定時出退社制度」など、労働環境の整備にも努めている。</p> <p>法人共通の人事考課・目標管理制度や、階層ごとの能力・職責等の基準が整備されている</p> <p>法人共通の職員の育成・キャリア形成の体系として、上下相互に評価を行う「360度評価」制度や、その基準となる階層ごとの能力・職責や姿勢・行動の指標、階層・職種に応じて設けられる多様な内部研修が整備され、考課項目や研修の計画として示されている。360度評価ではリーダー以上者・未滿者それぞれについて、各職員が自身や上位者・部下を所定の項目により評価するとともに、半期ごとの成長目標を設定し、評価や進捗・達成を園長との面談により共有している。評価は人事や賃金にも反映され、各人の意欲や帰属意識の向上の一助とされている。</p> <p>多様な研鑽や話し合いが保育の質や現場の活力を高め、職員の意向の把握にも努めている</p> <p>法人内の研修の充実が図られ、外部の専門機関とも提携し、乳児・幼児の保育や法人の保育の柱であるコダーイ保育、わらべうたや食事・保健等、職位・経験や職種に応じた多様な研鑽がなされている。また外部の研修も各人の専門性向上に活かすとともに、別掲の乳児・幼児の各会議をはじめ、園内での話し合いと学びも活発になされており、保育の質と現場の活力の向上の推進源となっている。上記の園長の面談や法人の年2回の意向調査など、職員の意向の把握にも努め、今般の職員自己評価にも鑑み、体制の充実などの法人とも連携した改善を図る意向である。</p>		

カテゴリー7	
7 事業所の重要課題に対する組織的な活動	
サブカテゴリー1(7-1)	
事業所の重要課題に対して、目標設定・取り組み・結果の検証・次期の事業活動等への反映を行っている	
<p>評価項目1 事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その1)</p> <p>前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)</p> <p>昨年度、事業計画の重点課題の一つに「職員の質向上・自身のスキルアップ」を挙げ、園内での話し合いと研鑽の場を充実させ、年間を通じた取組によって個人・組織両面で学びの促進を図った。 特にリーダー層以外の職員の能力向上を促すことを目指し、乳児の担当保育者が集う乳児会議を毎月設けた。 年度の前半は園長が中心となって同会議内で研修を行い、子どもの個別の発達援助について学びを深めるほか、子どもたちの遊びやトラブルの場面を収めた動画をもとに、子どもの心情や望ましい関わりを話し合ったり、子どもの発達段階を示す表を見ながら、玩具などの室内の環境構成を考えるなど、種々のテーマで保育に関する知見を高めた。 また年度の後半にはリーダー層を中心に、各クラスの実践の様子の見学を通じて相互の気づきを促すほか、保護者や後輩職員から寄せられた質問に対してどのように答えるかを考える取組を行った。育児の仕方、幼児の異年齢保育や乳児の担当制保育など、保育や子どもへの援助に関する園の基本方針について、目的や理由、得られる育ちなどを各人が考え、相互に発表して共有することで、思索と研鑽を深めた。</p>	
目標の設定と取り組み	<input checked="" type="radio"/> 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った <input type="radio"/> 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった <input type="radio"/> 具体的な目標が設定されていなかった
取り組みの検証	<input checked="" type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った <input type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった(目標設定を行っていなかった場合も含む) <input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
検証結果の反映	<input checked="" type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた <input type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない <input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
<p>評価項目1で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評</p> <p>一連の取組は園長にとっても学びの場となり、毎回の研修の資料の作成に加え、研修を行う中で自身の考えや園の方針を職員により深く伝えるよう努めた。 さまざまな研鑽と話し合いは、参加したリーダー以上者だけでなく、新人を含む後輩の職員も自身の意見や学びを発信したり、質問に的確に回答する様子が見られるようになり、研修の形態に対しても、わかりやすかったとの声や、年度後半のリーダー層中心の研修について、身近な存在から話を聴く機会となったとの声が得られた。 課題として、理解していることや学んだことを文章に表現することに比べ、それを言葉にして相手に伝えることについては、苦手意識が残る職員も見られることから、今年度は中堅層や新人が自身の言葉で保育を説明する力や、リーダー層の指導力を高めることを目的に、リーダー職員が教える立場となる研修を増やすこととした。 乳児会議では、毎月のテーマを、各リーダーが後輩と保育をしていて感じる課題や、経営層がとらえた現場の状況から設定し、進め方や伝える内容は各リーダーが考える形態とし、幼児会議でもテーマを設けてリーダーから後輩に発信したり、現場の課題について原因や対策を話し合う場を設けている。</p>	

評価項目2

事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その2)

前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)

昨年度は「環境設定と課業の充実」も重点課題として、取組を行った。
 幼児の保育の柱の一つとする、数的概念や文学、環境認識・音楽活動・美術活動等の各テーマで行う「課業」について、前年度から引き続き1.5か月に1回テーマを決め、子どもたちが身近な体験の中から、自分を取り巻く環境について遊びを通して知ることができるよう、活動を進めた。また子どもたちの遊びや活動をさらに豊かにすることを目的に、発達に沿った玩具の設定や室内レイアウトの変更など、幼児の各クラスで定期的に見直しを図った。
 活動の計画の立案にあたっては、子どもたちが主体的に活動に関われるよう、各担当が学習の意味とねらいをより深く考え、検討することと心がけた。
 年間で計画を立てながら、子どもたちにさまざまな体験の機会を設けた。「職業」のテーマでは、感染防止にも配慮しながら近隣のパン店に見学に行き、店員の方に、仕事の内容やなぜその仕事をしているのかなどを尋ねる中で、子どもたちが当番活動を通じて知る、役に立つことや責任を果たすことの大切さや喜びにも共通する、その人の仕事や働くことへの意欲、その源となっている思いなどに触れることができた。

<p>目標の設定と取り組み</p>	<ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="radio"/> 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った <input type="radio"/> 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった <input type="radio"/> 具体的な目標が設定されていなかった
<p>取り組みの検証</p>	<ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った <input type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった(目標設定を行っていなかった場合も含む) <input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
<p>検証結果の反映</p>	<ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた <input type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない <input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である

評価項目2で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評

取組の中では、年度の後半には子ども同士が話し合う場も積極的に設け、思いを言葉にして発信したり、相手の話に傾聴する力を高め、互いに意見を受けとめ、理解し合う経験を重ねられるようにした。
 目的やねらいを定めて行う課業の活動は、年間を通じて行われ、自身をとりまく環境への認識を通じて、それまで何気なく行っていたことについて、疑問や関心が深まることで、より深く知ろうとする子どもの姿も見られるようになってきている。
 課業をより発展させてゆくための検討については、今年度の幼児の会議でリーダー職員が中心となり、幼児担当が保育や子どもについての理解を深めることを目的とした研修を行うこととし、話し合いやリーダー層の啓発を通じ、子どもに獲得させたい経験や成長を各保育者が発達段階に沿って考え、子どもたちの学びに向かう力や意欲をより引き出し、遊びや活動の充実につなげてゆくことを目指している。

Ⅱ サービス提供のプロセス項目(カテゴリー6-1～3、6-5～6)

No.	共通評価項目		
サブカテゴリー1			
1	サービス情報の提供	サブカテゴリー毎の標準項目実施状況	4/4
評価項目1 利用希望者等に対してサービスの情報を提供している		評点(〇〇〇〇)	
評価	標準項目		
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 利用希望者等が入手できる媒体で、事業所の情報を提供している		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 利用希望者等の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものになっている		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 事業所の情報を、行政や関係機関等に提供している		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 利用希望者等の問い合わせや見学の要望があった場合には、個別の状況に応じて対応している		<input type="radio"/> 非該当
サブカテゴリー1の講評			
<p>法人・園のホームページを通じて保育の特徴や園の概要、保育実践の様子を発信している</p> <p>法人のホームページには、2歳児クラスまでで採り入れている、生活の基本を丁寧にサポートする育児担当制を軸にした保育や、3歳以上児の、自由に遊べる時間を多く確保し、自分で遊びを選び、遊び込むことをかなえる保育といった、法人共通の保育の特色や、代表からのメッセージが掲載されている。また園のページには、所在地や連絡先、アクセス・定員・実費負担額を掲載するほか、ブログ「保育士徒然日記」では保育実践の内容を紹介しており、なるべく現場の声や活動の雰囲気をお届けしたいとの思いから、毎月現場の保育者が執筆している。</p> <p>子育て支援事業を通じて、園の保育や専門性を地域に還元している</p> <p>子育て支援事業として、わらべうたや簡単な運動、ふれ合い遊び、離乳食の試食会と栄養士による栄養相談などを実施し、「スポーツフェスティバル(運動会)」では未就園児用の競技も用意している。実施概要は区が発信する「育児わくわくカレンダー」に掲載し、地域の子育て世帯に参加を呼びかけている。イベント後には、希望があれば園内見学を実施し、アンケートに協力してもらい、今後の参考としている。子育て支援事業は、保育所が担う社会的な役割を果たすだけでなく、園の保育や専門性、職員の様子を知ってもらう機会にもなっている。</p> <p>園見学を実施して、保育の特徴や環境構成の工夫等を伝えている</p> <p>見学の申し込みは電話で受け付け、希望者と日程を調整したうえで、子どもたちの姿や保育者との関わりの様子が見られる時間帯に実施している。見学には個別に対応することで、質問しやすい雰囲気を作り、育児への不安や疑問を聞き取り、必要な情報を提供できるようにしている。来園者には各室内を案内しながら保育の特徴や環境の工夫を伝え、見学後にはパンフレットを渡して、年間行事等の説明も行っている。実施後にはアンケートを実施し、園を選ぶうえで大切にしていることや、園見学で確認することなどの情報を収集し、園運営に活用している。</p>			

サブカテゴリー2	
2	<p>サービスの開始・終了時の対応</p> <p>サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 6/6</p>
<p>評価項目1</p> <p>サービスの開始にあたり保護者に説明し、同意を得ている</p> <p style="text-align: right;">評点(〇〇〇)</p>	
評価	標準項目
●あり ○なし	1. サービスの開始にあたり、基本的ルール、重要事項等を保護者の状況に応じて説明している
○非該当	
●あり ○なし	2. サービス内容について、保護者の同意を得るようにしている
○非該当	
●あり ○なし	3. サービスに関する説明の際に、保護者の意向を確認し、記録化している
○非該当	
<p>評価項目2</p> <p>サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援を行っている</p> <p style="text-align: right;">評点(〇〇〇)</p>	
評価	標準項目
●あり ○なし	1. サービス開始時に、子どもの保育に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している
○非該当	
●あり ○なし	2. 利用開始直後には、子どもの不安やストレスが軽減されるように配慮している
○非該当	
●あり ○なし	3. サービスの終了時には、子どもや保護者の不安を軽減し、支援の継続性に配慮した支援を行っている
○非該当	
サブカテゴリー2の講評	
<p>入園に際して園の重要事項を保護者に説明し、保育開始の同意を確認している</p> <p>入園が内定した家庭には、入園に際して必要となる書類一式と重要事項説明書を渡しており、個別面談までに通読と書類への記入を依頼している。重要事項説明書の内容に関しては、園長・看護師・栄養士が説明し、保護者が目を通していることを確認したうえで、保育時間・保育日・延長保育や、保育の特色、おむつの定額制サービスなど、特に注意が必要な事項や、専門職から担当分野における留意事項について説明している。また写真や動画撮影及びホームページ等への掲載に関する可否や、保育開始や個人情報の利用に関する同意を署名にて確認している。</p> <p>個別面談を実施し、子どもや家庭の状況を把握して職員間で共有している</p> <p>個別の面談では、保護者の勤務先や緊急連絡先、保育時間や、入園前の健康状態、予防接種・健康診断・既往症の履歴などの保健面の情報、食事・睡眠・排せつ・言葉・遊びなど、心身の発達や生活リズムなどの情報を、保護者が記入した書類や聴き取りで確認している。面談の際には「新入園面接」を用いて、アレルギーや熱性けいれんの有無、土曜保育・延長保育の利用希望を確認し、食事面・健康面で配慮が必要な場合には、専門職も情報を聴き取って記録しており、これらの面談の情報は、年度末の新クラス会議において職員間で共有している。</p> <p>入園直後の負担と不安を軽減できるよう努め、利用終了後の関係継続にも取り組んでいる</p> <p>入園直後の子どもの心身の負担を軽減できるよう、徐々に保育時間を延ばす「慣れ保育」を実施している。初日は可能であれば保護者も一緒に保育室に入ってもらっており、3日間の予定期間の後には、子どもの様子に応じ、保護者と話し合っ進め方を決めている。通園に際し、保護者との信頼関係を築き、不安を軽減できるよう、子どもの様子を丁寧に伝え、保護者から子どもの家庭での様子や変化を聴き取るよう心がけている。卒園児には「スポーツフェスティバル(運動会)」の招待状を送付し、参加を呼びかけるなど、利用終了後の関係の継続に努めている。</p>	

サブカテゴリ-3		
3	個別状況に応じた計画策定・記録	サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況 13/13
評価項目1 定められた手順に従ってアセスメント(情報収集、分析および課題設定)を行い、子どもの課題を個別のサービス場面ごとに明示している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 子どもの心身状況や生活状況等を、組織が定めた統一した様式によって記録し把握している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 子どもや保護者のニーズや課題を明示する手続きを定め、記録している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. アセスメントの定期的見直しの時期と手順を定めている	<input type="radio"/> 非該当
評価項目2 全体的な計画や子どもの様子を踏まえた指導計画を作成している		評点(〇〇〇〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 指導計画は、全体的な計画を踏まえて、養護(生命の保持・情緒の安定)と教育(健康・人間関係・環境・言葉・表現)の各領域を考慮して作成している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 指導計画は、子どもの実態や子どもを取り巻く状況の変化に即して、保育の過程を踏まえて作成、見直しをしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 個別的な計画が必要な子どもに対し、子どもの状況(年齢・発達の状況など)に応じて、個別的な計画の作成、見直しをしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 指導計画を保護者にわかりやすく説明している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	5. 指導計画は、見直しの時期・手順等の基準を定めたうえで、必要に応じて見直ししている	<input type="radio"/> 非該当

評価項目3 子どもに関する記録を適切に作成する体制を確立している		評点(〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 子ども一人ひとりに関する必要な情報を記載するしくみがある	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 指導計画に沿った具体的な保育内容と、その結果子どもの状態がどのように推移したのかについて具体的に記録している	<input type="radio"/> 非該当
評価項目4 子どもの状況等に関する情報を職員間で共有化している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 指導計画の内容や個人の記録を、保育を担当する職員すべてが共有し、活用している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 子どもや保護者の状況に変化があった場合の情報について、職員間で申し送り・引継ぎ等を行っている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 子ども一人ひとりに対する理解を深めるため、事例を持ち寄る等話し合う機会を設けている	<input type="radio"/> 非該当
サブカテゴリ3の講評		
子どもの成長・発達や家庭の状況を把握し、記録する仕組みを整えている 入園時に把握した子どもの心身の発達や生活の状況、保護者の就労状況等の情報については定期的に確認し、記録する仕組みとなっている。体格的な成長は毎月の身体測定を行って把握している。心身の発達は、保育管理の統合ソフトウェアを用いて、主な発達の現れを記録している。児童票には、発達評価の定型項目には網羅されない個々の成長や課題、健康等の子どもの姿などを記載している。担当が記入した後は子どもの育ちを多面的にとらえられるよう職員間で共有している。家庭の状況は日々の送迎時の対話や連絡帳、個人面談などを通じて把握している。 全体的な計画をもとに、各指導計画を策定し、保育を実践している 全体的な計画をもとにして、年齢別の年間を4期に分けた保育計画を策定し、短期的な月間・週間の計画に展開させ、実践につなげる仕組みとなっている。各計画は周期ごとに振り返りを行って、次の計画に反映させることとなっている。また社会的責任や人権尊重のほか、健康や災害への備え、研修計画など園の保育実践を支える項目についても考え方が記されている。この計画をもとに年齢別に定める長期の保育計画とより実践的な短期の保育計画を策定している。またコグナイ理論に基づく、わらべうたをはじめとする「課業」の計画も別途作成している。 子どもの状態を職員間で共有し、保育内容を保護者に伝え、理解を得るよう努めている 上記の集団としての計画に加え、2歳児までと個別の配慮を必要とする子どもには、個人別の指導計画も作成しており、個々の発達や特性に応じた援助につなげている。保育の計画や内容はさまざまな方法で保護者にも伝えており、年2回設ける保護者懇談会では、子どもの姿や育ちの見通しに関する資料を作成して保護者に伝えるほか、個人面談では子どもの伸長点・課題点について伝え、保護者との共通認識を持てるようにしている。その他、ホームページで子どもたちの行事での姿や保育での活動を伝えるブログにも取り組んでいる。		

サブカテゴリー5		
5	プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重	サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 子どものプライバシー保護を徹底している		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもに関する情報(事項)を外部とやりとりする必要がある場合には、保護者の同意を得るようにしている	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもの羞恥心に配慮した保育を行っている	○非該当
評価項目2 サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、子どもの意思を尊重している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 日常の保育の中で子ども一人ひとりを尊重している	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもと保護者の価値観や生活習慣に配慮した保育を行っている	○非該当
●あり ○なし	3. 虐待防止や育児困難家庭への支援に向けて、職員の勉強会・研修会を実施し理解を深めている	○非該当
サブカテゴリー5の講評		
<p>情報の適切な取り扱いと、子どものプライバシーや羞恥心に配慮した支援を行っている</p> <p>個人情報やプライバシー情報を外部へ提供する必要がある際には、保護者の同意を確認することとなっている。子どものプライバシーや羞恥心への配慮として、排せつの援助の際には他から見えないような場所で行うほか、身体測定や水遊びの着替えの際にも必ずカーテンで周囲からの視線を遮るようにしている。また着替えの援助の際には上下ともに脱がないようにし、自分で着替えられる子どもたちにもその旨を伝えている。プライベートゾーンの大切さなどについても、羞恥心の芽生えには個人差があることを踏まえ、理解に応じた伝え方を心がけている。</p> <p>日常の保育の中で、子ども一人ひとりを尊重した関わりや声かけを心がけている</p> <p>日常の保育の中で一人ひとりを尊重できるよう、子どもの発達段階や理解力を踏まえ、否定的な言葉かけを控え、肯定的な伝え方を心がけることを旨として、クラス会議や週案会議などの話し合いの場で、職員間の認識共有を図っている。保育者がねらいを立てて実践するプログラムや集団活動を行う際には、無理強いはせず、自由に参加できるようにしており、子どもが主体的に関心を持てるような、言葉かけや環境構成を工夫するほか、子どもの経験を保障できるよう、時間や場所を変えて問いかけたり、誘いかけたりするなどの配慮にも努めている。</p> <p>子どもの虐待防止に向け職員の自戒を促し、子どもと保護者の様子の把握に努めている</p> <p>法人共通の「虐待防止マニュアル」に、虐待の発見のポイントや場面別のチェックリストなどを掲載しており、事務室に常置して確認できる状態にしている。また不適切な保育の防止に向けた園内研修を実施し、職員の自省を促している。家庭内での育児不安や虐待を早期発見できるよう、登園時の視診では、子どもと保護者の表情を確認するほか、着替えの際にも、全身の情報を確かめるようにしている。子どもや保護者の様子、身体面等の異変に職員が気づいた際には、上長に報告し、職員間で随時共有することとしており、会議でも話題にして周知を図っている。</p>		

サブカテゴリー6		
6	事業所業務の標準化	サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている	○非該当
●あり ○なし	2. 提供しているサービスが定められた基本事項や手順等に沿っているかどうか定期的に点検・見直しをしている	○非該当
●あり ○なし	3. 職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している	○非該当
評価項目2 サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直し取り組みをしている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 提供しているサービスの基本事項や手順等は改変の時期や見直しの基準が定められている	○非該当
●あり ○なし	2. 提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や保護者等からの意見や提案、子どもの様子を反映するようにしている	○非該当
サブカテゴリー6の講評		
<p>危機管理や保育の基本を定めたマニュアルを用意している</p> <p>業務の標準を示すマニュアルとして、虐待対応・災害時対応・不審者対応・重大事故防止など、危機管理に関するものを整えており、手順とその流れ、留意事項を掲載し、図やイラスト・写真を活用するなどの工夫をしているほか、参考となる知識・事項としてコラムや参考文献の抜粋なども掲載している。また、法人職員としての自覚や心構え、服装、基本行動、情報の取り扱い、保護者に対する基本姿勢については「職員ルール」に、保育に臨むにあたり注意すべきことは「保育について」に掲載し、新入職員を対象に園で個別に説明している。</p> <p>日々の保育実践に必要な看護や食事・戸外活動に関する基本を定めている</p> <p>上記に加え、看護業務のマニュアルには各クラス的环境整備や消毒薬の種類と用途、症状別の応急手当等についての基本を定めているほか、乳児・幼児それぞれの食事の手順も明示し、食物アレルギー対応食の安全な提供に向けた手順や留意点も記載している。また戸外活動を安全に実施できるよう、公園ごとに写真を用いて、危険箇所や危険な昆虫に関する情報、職員の位置取り、散歩を実施する際の時間の流れ(日課)や留意点について明らかにしており、内容に変更がある時には作り直している。</p> <p>事故防止に向け具体的な場面を想定して実技を学び、マニュアルの変更時期も定めている</p> <p>「事故防止委員会」を毎月実施しており、今年度はプール事故や熱中症、嘔吐処理法などに関して、具体的な場面を想定した実技を学んでいる。また乳児・幼児会議では、日課の立て方や細かい玩具の使い方、遊びが成立する条件など、生活・遊びのさまざまなことをグループワークなど交えながら学んでいる。安全計画には、園内・園外の安全点検の時期と内容のほか、重大事故防止・虐待防止・感染症などの各種マニュアルの見直しの時期を定め、子どもに対する安全指導や保護者に対する説明、避難訓練等の実技訓練・研修の内容を示している。</p>		

Ⅲ サービスの実施項目(カテゴリー6-4)

		サブカテゴリー4	
サービスの実施項目		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況	36/36
1 評価項目1 子ども一人ひとりの発達の状態に応じた保育を行っている		評点(〇〇〇〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 発達の過程や生活環境などにより、子ども一人ひとりの全体的な姿を把握したうえで保育を行っている	○非該当	
●あり ○なし	2. 子どもが主体的に周囲の人・もの・ことに興味や関心を持ち、働きかけができるよう、環境を工夫している	○非該当	
●あり ○なし	3. 子ども同士が年齢や文化・習慣の違いなどを認め合い、互いを尊重する心が育つよう配慮している	○非該当	
●あり ○なし	4. 特別な配慮が必要な子ども(障害のある子どもを含む)の保育にあたっては、他の子どもとの生活を通して共に成長できるよう援助している	○非該当	
●あり ○なし	5. 発達の過程で生じる子ども同士のトラブル(けんか・かみつぎ等)に対し、子どもの気持ちを尊重した対応をしている	○非該当	
●あり ○なし	6. 【5歳児の定員を設けている保育所のみ】 小学校教育への円滑な接続に向け、小学校と連携をとって、援助している	○非該当	
評価項目1の講評			
<p>子どもの発達や興味を把握し、子どもが主体的に遊び込める環境づくりに努めている</p> <p>子どもの状況は、定期的に行う発達評価や日々の保育日誌、保護者との送迎時の対話と連絡帳のやり取りなどから把握している。子ども一人ひとりの興味・関心などにおいても、クラス担任間で共有するよう心がけている。それらの情報を踏まえて、子どもたちが主体的に遊びに関わることができるよう、適切な玩具の設置や、子どもの動線などを考慮した随時の環境構成の見直しに努め、ままごとのコーナーやボードゲームのコーナーなど、遊びごとに空間を分けたりするなど、子どもが集中して遊び込むことができる環境設定の工夫に取り組んでいる。</p> <p>異年齢保育によって年齢相互の育ちを促し、多様な文化に触れる機会を設けている</p> <p>3歳以上児は異年齢混合で2クラスに分かれ、生活と遊びをともにする中で、互いに刺激し合い、それぞれの育ちを促している。年下児は年上児のまねをしながら、遊びを獲得したり、生活に必要な所作を身につけたりしている。年上児は自分が獲得してきたことを年下児に教えることで、伝え方や相手の状況を踏まえることを学ぶほか、自信や自覚が育まれている。また、わらべうたなどの伝承遊び、郷土料理などを通して日本文化を大切に、クリスマスやハロウィン、世界の料理などを通して異文化に親しむなど、多様な文化に触れる機会を設けている。</p> <p>子ども同士のトラブルを子ども自身で解決できるよう、学びや体験など援助に努めている</p> <p>かみつぎや引っかきなどは、できるだけ未然に防ぐことができるよう、子どもの状況などを職員間で共有し、玩具の数や空間構成、職員と子どもの位置関係などの工夫に努めている。幼児クラスでは、子どもたち自身が発生したトラブルについて考え、自分たちで解決する体験ができるよう、保育者は見守りに努めている。必要に応じて話題の整理・代弁・仲介などの援助を行ったり、皆で話し合う機会を設けたりしている。その中で、自分に思いがあるように、相手にも思いがあることを子どもたちが知り、伝え方や関わり方を体験から学べるように努めている。</p>			

2 評価項目2 子どもの生活が安定するよう、子ども一人ひとりの生活のリズムに配慮した保育を行っている		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 登園時に、家庭での子どもの様子を保護者に確認している	○非該当
●あり ○なし	2. 発達の状態に応じ、食事・排せつなどの基本的な生活習慣の大切さを伝え、身につくよう援助している	○非該当
●あり ○なし	3. 休息(昼寝を含む)の長さや時間帯は子どもの状況に配慮している	○非該当
●あり ○なし	4. 降園時に、その日の子どもの状況を保護者一人ひとりに直接伝えている	○非該当
評価項目2の講評		
<p>登降園時に保護者と子どもの情報を伝え合い、組織内の情報共有の仕組みも整えている</p> <p>登園時には、保育者が子どもの顔色や機嫌、発熱の有無、目に見える範囲の傷の有無などの視診を行うほか、保護者から子どもの健康面や情緒面などの聴き取りを行っており、各年齢とも連絡帳アプリに記入された内容も確認している。これらの内容は、職員間の口頭伝達のほか、記録簿を各クラスごとに用意して記録・共有している。降園時にはできる限り子ども一人ひとりのエピソードを伝えられるよう心がけ、担任以外の職員が担当する場合であっても、保護者に必要な情報を伝達するようにしている。3歳以上児については活動報告を掲示している。</p> <p>子ども一人ひとりの成長・発達、生活リズムに応じた休息を取れるようにしている</p> <p>子どもの発達・体調に応じた睡眠時間やスペースを確保できるようにしている。0歳児室では個別のベビーベッドを用意しており、午前寝や夕寝においても、自分の場所で安心して眠ることができるよう配慮している。食事中に眠たくなってしまう場合には、口の中の安全を確認したうえで眠れるようにするほか、必要に応じて、食事や睡眠時間など子どもの成長・発達や生活リズムの変化に合わせて、日課の見直しを行っている。午睡は身体を休める時間として採り入れており、入眠時には子守唄を歌ったり、個々のリズムや好みを踏まえた援助を行っている。</p> <p>生活習慣の習得への援助は、子どもの主体性・自発性を尊重しながら行っている</p> <p>手洗いや片づけなどの生活面の援助は、子どもたちが主体的に行動できるよう見守りながら、必要に応じて問いかけや声かけなどの援助に努めている。手の洗い方や玩具のしまい方などについては、大人が正しく行う姿を子どもの前で見せることで、意味を伝えたり、なぜそうするのか問いかけをしたりと、子どもたちが自分で考え思い起こせるような援助を行っている。また異年齢保育を実践する中で、伝えようとする様子やまねようとする姿が見られるなど、子どもたち同士の自発的な「見て学ぶ」姿として、日常の保育の中で自然な関わりが持たれている。</p>		

3 評価項目3 日常の保育を通して、子どもの生活や遊びが豊かに展開されるよう工夫している		評点(〇〇〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもの自主性、自発性を尊重し、遊びこめる時間と空間の配慮をしている	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもが、集団活動に主体的に関われるよう援助している	○非該当
●あり ○なし	3. 子ども一人ひとりの状況に応じて、子どもが言葉(発声や喃語を含む)や表情、身振り等による応答的なやり取りを楽しみ、言葉に対する感覚を養えるよう配慮している	○非該当
●あり ○なし	4. 子どもが様々な表現を楽しめるようにしている	○非該当
●あり ○なし	5. 戸外・園外活動には、季節の移り変わりなどを感じとることができるような視点を取り入れている	○非該当
●あり ○なし	6. 生活や遊びを通して、子どもがきまりの大切さに気付き、自分の気持ちを調整する力を育てられるよう、配慮している	○非該当
評価項目3の講評		
<p>子どもが自発的にさまざまな遊びを選び、楽しめるよう環境構成の工夫に努めている</p> <p>子どもたちが自発的に遊びを選び、遊び込める環境構成の工夫に努めている。子どもの発達や興味に応じたものを用意したり、掲示したりすることで、好奇心の広がり、探究心の深まりを促し、大人の都合で子どもの遊びや活動が細切れにならないよう、時間的な配慮にも取り組んでいる。遊びが必要以上に混じらないよう柵や机を配置するなど、空間構成の工夫にも努めている。ままごとコーナーでは、さまざまなものに見立てられる抽象的なものを、数や量に変化を持たせ配置しており、季節や興味に合わせて絵本の内容を変えるなどの工夫にも努めている。</p> <p>さまざまな遊びの中から、言葉を使って表現することを体験できる機会を設けている</p> <p>子どもたちの遊びを通して、子どもの発語を促し、自分の考えを言葉で表現することの楽しさや、相手とコミュニケーションを取ってわかり合う喜びを体験できるような活動や環境構成を行っている。ボードゲームなど、小集団でのやり取りを楽しめるような遊びを環境に用意したり、わらべうたを通して日本語表現や独特のリズムに触れたり、0・1歳ではスキンシップやコミュニケーション力を育てている。また2歳以降になると、ルールを守って遊ぶ楽しさや大切さを学ぶなど、他者と関わる力を育み、集団で活動することの楽しさを体験できるよう努めている。</p> <p>子どもが主体的に取り組み、言葉の感覚を身につけられるよう努めている</p> <p>子どもがさまざまな経験を認知につなげていけるよう、美術・文学・数・わらべうた・環境認識など、「課業」と呼ばれる活動を展開している。それぞれの活動を通じて、子どもたちの日々の経験に基づく思考の抽象化や整理を学び、身の回りの環境認識につなげられるよう取り組んでいる。子どもたちの経験を認知につなげてゆくことで、新たな興味や関心を促している。これらの活動は、子どもたちが主体的に参加することを大切にしており、子どもたちの体験の機会が失われないよう、保育者は無理強いにならないよう配慮しつつ、声かけを行うようにしている。</p>		

4 評価項目4 日常の保育に変化と潤いを持たせるよう、行事等を実施している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 行事等の実施にあたり、子どもが興味や関心を持ち、自ら進んで取り組めるよう工夫している	○非該当
●あり ○なし	2. みんなで協力し、やり遂げることの喜びを味わえるような行事等を実施している	○非該当
●あり ○なし	3. 子どもが意欲的に行事等に取り組めるよう、行事等の準備・実施にあたり、保護者の理解や協力を得るための工夫をしている	○非該当
評価項目4の講評		
<p>行事は、子どもたちが経験したことや友達と協力する姿を表現する機会となっている</p> <p>行事は、行事のために活動を計画するのではなく、日常の保育の中で見られる子どもたちの興味・関心や、子どもたちが楽しんでいることなどの延長線上にあるものととらえている。子どもたちが主体的に友達と協力し、創意工夫しながら一つのを創り上げる中で、成功や失敗を繰り返し経験することで、さまざまな課題を乗り越える機会となっている。行事への取組は、課業や日々の遊びを通じて認知したことや道具・技法などを活用しながら、子どもたちの頭の中にあるそれぞれのイメージや経験したことを具現化する表現活動にもなっている。</p> <p>行事を通じて、子どもたちがさまざまな課題を克服する成長の機会となっている</p> <p>「スポーツフェスティバル」は、親子で身体を動かす多様な活動内容を楽しむ場となっており、保護者に子どもの成長を伝える機会にもなっている。スポーツフェスティバル本番に向けて、子どもたちは会場である小学校に足を運ぶことで期待感を高めている。5歳児のリレーでは、普段の練習を行っていく中で、勝つためにはどうしたらいいのかということを友達と考えたり、負けてしまった時には悔しがったり励まし合ったりと、創意工夫や勝ち負けなどを通じて、心の折り合いなど、さまざまな課題を克服する成長の機会にもなっている。</p> <p>ニジマスのつかみ捕りや夏祭りなど、日常の保育に潤いを持たせる行事を行っている</p> <p>ニジマスのつかみ捕りを体験する機会を設けており、生きている魚に触ることで、感触から魚の生態の一部を知ることが体験したり、調理担当者がさばく様子を観察し、内臓の位置を認識したり、どのような過程を経て食べ物になっていくのか、また、それを食事としていただくことを通じて、命の大切さを伝えたりということを活動のねらいに定めて取り組んでいる。夏祭りでは、子どもも大人も浴衣や甚平を身にまとい、ヨーヨー釣りや輪投げなどを保育者が出店する一方で、子どもたちもお店屋さんを出店するなど、夏祭りをともに楽しむ姿が見られている。</p>		

5 評価項目5 保育時間の長い子どもが落ち着いて過ごせるような配慮をしている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 保育時間の長い子どもが安心し、くつろげる環境になるよう配慮をしている	○非該当
●あり ○なし	2. 保育時間が長くなる中で、保育形態の変化がある場合でも、子どもが楽しく過ごせるよう配慮をしている	○非該当
評価項目5の講評		
<p>保育時間が長くなる子どもが、集中して遊び、安心して過ごせる環境づくりに努めている</p> <p>子どもたちが好きな遊びを選択できる環境を構成するとともに、じっくりと遊び込める時間を確保している。机上でボードゲームや制作に取り組んだり、フリースペースで段ボールブロックなどを使って大胆に遊んだり、室内であっても、子どもたちが静と動のバランスを保てるような工夫をしている。また、保育時間が長くなる子どもたちが安心して過ごせるよう、保育者は子どもたちの話に耳を傾け、情緒面に不安がある場合には、保育者が絵本を読んだり、わらべうたを歌ったり、スキンシップを図るなどして、子どもが安心できるよう関わっている。</p> <p>子どもたちの心身の成長や知的好奇心の伸長を促す取組に努めている</p> <p>子どもたちが、さまざまな物事や事象に対して興味や関心を持てるよう、3歳以上のクラスでは、大人がリードする「課業」という時間を設けている。子どもが自身の身体の動きを知ったり、危機管理能力を高めたりという活動を行う「コーディネーション活動」、トラブル時のお互いの心情を考えることで情緒の成長を図る「ハッピータイム」のほか、わらべうたや造形教室など、さまざまな課業を用意している。参加しない子どもに対し無理強いはいはしないが、保育者は子どもたちが「やってみたい」と思えるような働きかけにも取り組んでいる。</p>		

6 評価項目6 子どもが楽しく安心して食べることができる食事を提供している		評点(〇〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもが楽しく、落ち着いて食事をとれるような雰囲気作りに配慮している	○非該当
●あり ○なし	2. メニューや味付けなどに工夫を凝らしている	○非該当
●あり ○なし	3. 子どもの体調(食物アレルギーを含む)や文化の違いに応じた食事を提供している	○非該当
●あり ○なし	4. 食についての関心を深めるための取り組み(食材の栽培や子どもの調理活動等)を行っている	○非該当
●あり ○なし	5. 保護者や地域の多様な関係者との連携及び協働のもとで、食に関する取り組みを行っている	○非該当
評価項目6の講評		
<p>穏やかで楽しい食事になるように、年齢や状況に合わせた援助に努めている</p> <p>2歳児までは育児担当制を導入しており、子どもが安心できる大人と家庭的な雰囲気の中で、落ち着いて食事を摂れるように心がけている。3歳児以上では、給食時間内であれば、空腹を感じた時に食べに来たり、遊びがひと段落してから食べに来たりと、自身の生活リズムに合わせて食事を摂ることができる仕組みとしている。また準備においても子どもたちが積極的にに関わり、テーブルクロスを敷いたり、食器や料理を配膳したりするなど、楽しく食事に向かえるような配慮をしている。子どもたちの好き嫌いにも丁寧に関わり、必要に応じて援助している。</p> <p>献立は和食を中心としており、子どもたちが多様な食文化に触れる機会も設けている</p> <p>給食は和食が中心のメニューとなっており、旬の食材を積極的に採り入れるようにしている。味つけも、自然の素材を使っただしを使用することで、だしの効いた素材本来の味を活かすものとなっている。また、月に1回程度、日本の郷土料理や世界の料理を献立に採り入れることで、多様な文化に触れる機会を設けている。季節の行事やイベントの際には、行事にまつわる料理を提供することで、子どもたちの行事に対する期待感を高めたり、視覚的にも楽しむことができるようにしたりするほか、その由来や料理に込められた思いなども伝えるようにしている。</p> <p>食物アレルギー対応や離乳食の提供では、安全の確保に向けた対策を講じている</p> <p>食物アレルギー対応では、医師の指示書をもとに除去食の提供を行っており、毎月保護者と献立を確認し、別トレイの使用や着座の位置の工夫、配膳提供時までの各段階における複数名による確認など、誤食や誤配の防止に努めている。離乳食は「食材調査表」を保護者とやり取りし、咀嚼や嚥下の状況を踏まえて子どもにとって無理のないペースで進められるようにしている。子どもたちの喫食状況などの情報を給食会議などで共有し、献立や食事の準備などを行っており、子どもの食欲や体調に応じて配膳の量を調整するなど調理者と保育者で配慮している。</p>		

7 評価項目7 子どもが心身の健康を維持できるよう援助している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもが自分の健康や安全に関心を持ち、病気やけがを予防・防止できるように援助している	○非該当
●あり ○なし	2. 医療的なケアが必要な子どもに、専門機関等との連携に基づく対応をしている	○非該当
●あり ○なし	3. 保護者と連携をとって、子ども一人ひとりの健康維持に向けた取り組み(乳幼児突然死症候群の予防を含む)を行っている	○非該当
評価項目7の講評		
<p>子どもが身体や健康への関心を持ち、知識を得られるよう、保健指導を実施している</p> <p>子どもの衛生感覚を育めるよう、排せつの援助や、食前・食後及び外出後の手拭き・口拭きなどを通じて、清潔の心地よさを伝えている。2歳児後半から手洗い指導を実施しており、手洗いが必要な理由や場面、手順を教え、手洗い場にはイラストも掲示している。咳エチケットや水分補給の大切さなどを生活の中で伝え、トイレの使い方については、男女に別れて教えている。また着替えが増える夏季には、視覚的な教材を用いながら、プライベートゾーンに関する話をし、身体には大切な場所があることや、自分の身体を大切にすることを伝えている。</p> <p>子どもの安全への意識を育み、身を守る術を伝える安全教育や避難訓練を行っている</p> <p>散歩に出かける前には、公道の歩き方などの交通ルールを伝えるようにしており、教えるだけでなく、子どもたちが自分で考えられるよう問いかけるほか、交通をテーマにした「課業」に取り組み、交通ルールに関する学びを得られるようにしている。遊びの中で危険な様子が見られた場合には、ものの用途や安全な使い方を伝え、問いかけを行い、子ども自身が自ら考える力を育めるよう援助している。毎月の避難訓練の際には、緊急時に自分の身を守るための行動や姿勢などを教えており、避難靴や防災頭巾を身につける体験もしている。</p> <p>子どもが健康的に過ごせるよう配慮し、保護者に保健に関する各種情報を提供している</p> <p>子どもが健康的に過ごせるよう、登園時には視診を行い、家庭での検温の結果から、体温が高めの際には頻回に子どもの様子を確認するようにしている。睡眠時にはSIDS対策を講じ、休息や水分補給は必要によって随時対応し、施設内の消毒や室温・湿度の管理、換気も行っている。囁託医とは、医療情報の提供や相談に応じてもらうなどの連携を図っており、園内で感染症が発症した場合には、症状や家庭で気をつけることなどを、掲示と連絡アプリで配信し、保健だよりでは、感染症や家庭で起こりやすい事故、身体や生活習慣に関する情報を掲載している。</p>		

8 評価項目8 保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている		評点(〇〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 保護者には、子育てや就労等の個々の事情に配慮して支援を行っている	○非該当
●あり ○なし	2. 保護者同士が交流できる機会を設けている	○非該当
●あり ○なし	3. 保護者と職員の信頼関係が深まるような取り組みをしている	○非該当
●あり ○なし	4. 子どもの発達や育児などについて、保護者との共通認識を得る取り組みを行っている	○非該当
●あり ○なし	5. 保護者の養育力向上のため、園の保育の活動への参加を促している	○非該当
評価項目8の講評		
<p>保護者の意向や要望の把握に努め、できる限りの対応と説明に努めている</p> <p>入園時には、保護者の子育てに関する考え方や方針を聴き取り、入園後にも、送迎時の対話や連絡帳のやり取り・個人面談などを通じて、育児の悩みや疑問・要望、育児に関する意識の状態の把握に努めている。また保護者が参加する行事の後にはアンケートを実施し、要望があがった場合には、園でできる限りの対応に努め、実現が難しい場合には、その理由を当該保護者へ口頭やアプリ連絡帳等で直接説明するほか、全体に関わるものについては、保護者会や配付物で周知を図るなど、保護者からのメッセージへの回答に努めている。</p> <p>就労や家庭育児を支援できるよう、柔軟な対応や配慮、情報の提供に取り組んでいる</p> <p>保護者の就労を支援できるよう、勤務や通院等などによる保育時間の延長や、利用日の急な変更には柔軟な対応に努めている。年間行事予定を年度当初に伝え、行事への参加や準備を行いやすくするよう、早めの情報提供に努めるほか、保護者が参加する行事は土曜日の開催を基本としている。また個人面談の日程についても、複数日の希望を聴き取り、できる限り希望の日程で行えるようにしている。育児の参考となる情報の提供にも取り組んでおり、園だより・保健だよりを発行するほか、行政から発せられるリーフレットを自由に手に取れるようにしている。</p> <p>保護者同士が交流する機会を設けるほか、保育の内容や子どもの様子を伝えている</p> <p>保護者同士が交流する機会として、保護者懇談会では、育児に関する関心事や不安などについて、自由に懇談する時間を設けたり、「スポーツフェスティバル」では保護者競技を行ったりしている。保護者懇談会は年2回実施しており、年度当初に実施する回では、1年を通じて大切にしたいことや、園の保育の基軸となる「課業」、外部講師によるプログラムなどに関する説明を行い、年度末に行う回では、子どもたちの成長を、写真を活用して伝えている。保育参観は子どもの様子を知ってもらい、保護者との共通理解を深めることをねらいとして実施している。</p>		

9 評価項目9		地域との連携のもとに子どもの生活の幅を広げるための取り組みを行っている		評点(〇〇)
評価	標準項目			
●あり ○なし	1. 地域資源を活用し、子どもが多様な体験や交流ができるような機会を確保している			○非該当
●あり ○なし	2. 園の行事に地域の方の参加を呼び掛けたり、地域の行事に参加する等、子どもが職員以外の人と交流できる機会を確保している			○非該当
評価項目9の講評				
<p>地域資源を活用した体験や交流を採り入れ、保育者以外の人と関わる機会を設けている</p> <p>区の私立保育所が主催する「子どもフェスティバル」に出かけ、劇団によるキャラクターショーを観劇しており、他園の子どもとも交流するほか、法人の他園と芋掘り遠足に出かけるなどの取組をしている。コロナ前には、近隣商店に出かけて話を聴いたり、周辺マップを作成する際、下調べのために町歩きをしたりしており、今年度は、図書館主催のお話会に参加している。警察官による不審者訓練の際には、子どもたちに身を守るための話をしてもらう予定となっている。また保育士養成校の実習生が来園しており、子どもたちと一定期間の交流が図られている。</p>				

事業者が特に力を入れている取り組み①		
評価項目	6-6-1	手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている
タイトル①	安全な保育実践に向け、具体的な場면을想定した学びの機会を設けている	
内容①	「事故防止委員会」を毎月実施しており、全職員が参加できるよう、同じ内容で2回行うようにしている。今年度は非常持ち出し袋の中身の確認、プール事故や熱中症、アナフィラキシー補助治療剤の基礎知識、嘔吐処理法、虐待防止、ヒヤリハットの重要性など、具体的な場면을想定した実技研修を行っている。また実際の事故の教訓から、公園の危険に関する情報を明らかにするとともに、安全に楽しめるよう、職員の位置取りについても考察している。危険箇所や人員配置の明示だけでなく、散歩を実施する際の時間の流れについての留意点も確認している。	

事業者が特に力を入れている取り組み②		
評価項目	6-4-3	日常の保育を通して、子どもの生活や遊びが豊かに展開されるよう工夫している
タイトル②	体験で得た情報を整理する「課業」を通じて、確かな知識や技術の獲得を促している	
内容②	体験で得た情報を整理する「課業」を通じて、子どもに確かな知識や技術の獲得を促している。今年度の交通をテーマにした課業では、戸外活動に出かけた際に子どもたちが気づいたさまざまな標識を写真に撮り、印刷して保育室に掲示し、どのようなものがあつたかを振り返る時間を設けている。また玩具の中には、標識に関するものや図鑑を用意し、興味や関心の広がりにつなげている。次年度は今年度を踏まえ、標識の形や色の分類、意味に気づけるような活動へ展開させ、関心の広がりや探求の深まり、確かな知識や認識の獲得につなげることを想定している。	

事業者が特に力を入れている取り組み③		
評価項目	5-2-1	組織力の向上に向け、組織としての学びとチームワークの促進に取り組んでいる
タイトル③	乳児・幼児の各会議で、話し合いの積み重ねを職員の学びや保育の充実につなげている	
内容③	昨年度から継続し、乳児・幼児の各会議で研鑽の場を活発に設けている。乳児会議では、各リーダーが日頃の後輩との関わりや経営層の把握した現場の状況などから毎月のテーマを設定し、進め方や内容を立案し、食事・排せつなどの援助・声かけ、乳児から幼児への接続、日課の目的やイヤイヤ期など、保育に関する各テーマで質疑応答を重ねる中で、参加各人の学びを深めるとともに、指導者側の伝え方の技術を高めている。また幼児会議でもテーマを設けてリーダーから後輩に発信したり、現場の課題について原因や対策を話し合う場を設けている。	

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	2歳児までは育児担当制を導入し、子どもの発達状況や意欲を踏まえた応答的なやり取りを通じて、身辺自立への援助を行っている
	内容	2歳児までは育児担当制を採用しており、子ども一人ひとりの性格や発達をより深く理解し、信頼関係を築いた職員が食事・排せつ・衣服の着脱といった生活面での援助を行い、子どもたちが安心感を得ながら所作を習得できる環境を保障している。応答的な関わりを心がけ、安心して大人と関わりを持つ経験を重ねることで、人との関わりを主体的に持つことのできるコミュニケーション力や、人への関心を寄せる心の基礎を育んでいる。子どもたちが安心して自発的に遊べるよう、見守られているという安心感や変えないことの安心感も大切にしている。
2	タイトル	日々の食事の提供では、子どもたちの食に関する発達を段階的に把握し、食事における生活習慣の確かな自立につなげている
	内容	日々の食事では保育者が、個々の子どものペースや食べこぼしの量、食具の使い方などを細やかに把握し、一人ひとりに適切な援助を行っている。乳児期の段階から、保育者が子どもの食事に丁寧に関わることで、食の習慣や所作の定着が図られ、子ども自身が落ち着いた雰囲気の中で、食事を丁寧に摂る姿へとつながっている。またこうした実際の食事の援助場面だけでなく、ままごとなどの遊びの環境においても、年齢や成長・発達に応じた、見立て遊びのできる玩具や食器などを配置することで、遊びを通して身辺自立につながるような工夫に努めている。
3	タイトル	多様な会議体を設け、子どもの状況や必要な環境・援助などを、保育者間で活発に話し合い、保育の充実に活かしている
	内容	園やクラスを運営するにあたっての情報共有や議論するための場として、クラス会議やリーダー会議、週案会議など、多様な会議体を設けている。週案会議ではすべての保育者が子どもへのばらつきのない対応ができるよう、その時々の子どもの状況や、個々の特性や体質などを共有するほか、援助の内容や食事の形態、健康面などの共有も行っている。また年度替わりには引き継ぎ会議を行い、子どもたちが進級後もそれまでの生活リズムを崩すことなく、安心して過ごせるよう配慮するなど、職員間で必要な情報を共有することで、保育の質の向上につなげている。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	子どもたちの体験をより豊かにしながら、子育ての支援によって園の認知と評価も高まるよう、地域との交流の活性化を課題としている
	内容	園の保育の基軸として取り組んでいる「課業」は、遊びと生活の中にあるさまざまな体験を整理して、知識や技術をより確かなものとする活動であり、これをさらに豊かなものとするためにも、コロナ禍以降縮小している、地域資源を活用した取組の充実を今後の課題ととらえている。またこれらの子どもたちと地域との交流に加え、園の特色や専門性をより活発に発信し、地域における園の認知と評価を高め、長期的な経営基盤の確保につなげることも課題としている。親子わらべうたや離乳食試食会など、子育て支援の取組のさらなる活性化にも期待が寄せられる。
2	タイトル	現場の指導・育成の文化をより豊かにすることで、園や法人の保育の本質を組織全体で深く理解し、実践の充実につなげることが期待される
	内容	日々変化する多様な子どもたちの育ちを、保育者がそのつととらえ、的確な援助を行ううえでは、各クラスで先輩保育者が後輩に対して、園・法人の目指す保育の本質を、よりの確に伝えることが必要となる。そのための研鑽として、乳児クラスを中心に、毎月の会議で現場発信の実践的なテーマを設け、中堅・リーダー層が指導役となって、後輩に知見を伝えてゆく学びの場を重ねている。経営層は学びは道半ばと認識しており、さらなる研鑽の積み重ねを日々の多様な実践と結びつけながら、育成にあたる各職員の見識と伝える力の向上につなげることが期待される。
3	タイトル	園が日々行う安全向上のさまざまな取組を保護者により積極的に発信し、安心感と信頼の向上につなげる工夫も期待したい
	内容	利用者調査ではほとんどの質問で有効回答の8～9割以上の支持を得ており、総合的な満足度の値からも、保護者との良好な関係性がうかがえるが、安全対策についてはさらなる信頼や安心の獲得を図る必要性も見て取れる。そのための方策の一つとして、今年度策定の「安全計画」に示される、園の安全・保健に関する諸活動の全体像や種々の取組を、より具体的に保護者に発信することも一案かと思われる。入園時や定期的な保護者懇談会、日々の発信物など、さまざまな機会をとらえて園の取組を保護者と共有し、安心感の獲得につなげることを期待したい。